部会・プロジェクト紹介⑤

このコーナーでは MELON の活動母体である各部会・プロジェクトの活動を、１つずつピックアップして紹介していきます。

風力発電推進プロジェクト

宮城県内において風力発電に適した風があるかを見極める！

MELON 風力発電推進プロジェクトは 2001 年 8 月に立ち上げられました。

①宮城県内における風力発電事業の可能性を見極めるための調査研究

②市民参加型風力発電事業のシステム研究

③関係者・機関のネットワークづくり

の３つをプロジェクトの目標とし、2001 年には県内における風況調査候補地やその財源となる助成金などの情報収集を行ないました。

2002 年には前年度に引き続き風況調査候補地の選定を行いながら、白石市内を調査地点とした NEDO フィールドテスト事業への申請を行ないましたが、残念ながら不採択でした。2003 年には宮城県が 3 ヶ月間の調査を行なった石巻市内を調査地点とした NEDO フィールドテスト事業への申請を検討しましたが、自衛隊基地に関する法律のため風力発電施設の建設は困難との判断から断念いたしました。その間、七ヶ宿町との協議を重ね、2004 年度に入り共同による風況調査の実現を果たしました。

プロジェクトでは風力発電に関する学習会を行ったり、現在調査を実施している七ヶ宿町柏木山での自然観察会（候補地にどのような鳥類が生息しているかを把握しておくことは重要)を実施しています。今後、プロジェクトの活動の方向性がどのようになるかはまさに”風次第”ですが、プロジェクトの活動を通じて得られた地域の情報や自然エネルギーに関する知識は大きな財産と言えます。

事務局担当／南

MELON20周年をめざせ！

50人リレートーク

第５回目の執筆者

宝明（ほうみょう）真理さん

（日本農業新聞
営農生活部）

食べ物を食べる人と作る人の距離が遠くなったとよく言われます。食べ物は店で買うものという現代の生活では、田畑の状況は消費者の実感から遠くなっています。食育の取材で出会う学校の先生も、素朴なことに驚いていました。

ある小学校の先生は、ダイコンの栽培体験の後、こう言いました。「植物は種から芽を出しますよね。梅ならば、食べた後に種が残ります。しかし、ダイコンは切っても切っても種が出てきません。どこに種があるのでしょう」。先生はダイコンを置いておき、経過を観察したそうです。

食と農の距離を縮める対策として食育基本法が国会で成立する見込みです。農水省、厚労省、文科省もそれぞれ食育を進めていますが、各省庁でとらえ方も異なっています。ともすると栄養教育になりがちで、「農」への視点が抜け落ちかねません。

しかし、単なる知識としての栄養教育だけでは、子どもたちの心を動かすことはできません。給食を題材に食育を行っている学校栄養士も、地元農産物の利用をきっかけに農家と交流したり、農業体験をすることが大切だと話しています。

日本農業新聞では昨年、４月から９月にかけて食育企画「わくわく　ドキドキ　食の学校」を掲載しました。生産から消費までの一連の流れを、子どもを通じて発見、驚き、納得する様子を描きました。月（太陰暦)、火、水、木、土などが題材です。

生産への想像力が食べ物への愛着やありがたさを育み、総合的に食べ物を選択する能力を身につける土台になるというメッセージを込めました。ぜひご一読を。

次号予告

次は、湊秋作（みなとしゅうさく）さん。和歌山県での小学校教諭としての 24 年間、熊野の森や川や田んぼで環境教育を展開。現在、財団法人キープ協会やまねミュージアム館長、日本環境教育学会運営委員を務める。